

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 イザヤ書 43:1	讃 美 歌 249 われつみびとの
讃 美 歌 84 かみにたより、主にしたがえ	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 詩編 113:4~9	主の祈り 564
コリントの信徒への手紙二 8:9	頌 栄 544 あまつみたみも
讃 美 歌 291 主にまかせよ	祝 禱
説 教 『命をも交換する』	後 奏

「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだった(Ⅱコリント8:9)」。富の移譲によって主が貧しくなり、貧しかった信徒が豊かになった。

この表現から、主イエスと「あなたがた(コリントの信徒)」を天秤に乗せ、恵みの分銅を移したようなイメージが浮かんだ。この手紙にはこうした「交換」の表現が他にもある。「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪とした。わたしたちはその方によって神の義を得ることができた(5:21)」。こちらは「キリストの義」と「わたしたちの罪」が、あたかも交換されたような感じか。

「あなたがた」に与えられた「富」がどのくらいのものか分からないが、それによってキリストが貧しくなっちゃうとは「神の富」もたいしたことないね、と思うだろうか。若い頃、私はそう思った。あるいは、この宇宙を創造された神の「富」なのだから無尽蔵かもしれない。だとしたら遠慮なく戴きたいが、分け与えて貧しくなっちゃうのなら(8:9)、他の人の分も考えて控えめにしておこうか。

たとえば「生命」が謎であるように、神の富や働きの全体は謎だ。日常的に生命に接し、私自身が生命の塊でありながら、なおも生命が謎に包まれているように、私たちが神の働きの内にいても、見通せる視界はキリストの範囲だけ。だから精一杯分頑張っても分かるのは「主の貧しさによって」私たちが豊かにされていることまで。「主は豊かであったのに」私たちのために貧しくなられたことまで。

「(主は)弱い者を塵の中から起こし、乏しい者を芥の中から高く上げ、自由な人々の列に、民の自由な人々の列に返してくださる(詩編 113:7~8)」。これは男の救い。「弱い男、乏しい男」を立ち上がらせて自由な人々の中に迎え入れる。女の救いは「子のない女を家に返し、子を持つ母の喜びを与えてくださる(113:9)」。肉的な母ではなく大勢の子の母となる喜び。なぜ、こんな救いが実現するのか。

「みくらを高くおきながら、身をかがめて、天と地を顧みる。我らの神ヤーウエに、較べうるものはだれもない(113:5~6 左近淑訳)」。私たちの神、主(ヤーウエ)は「身をかがめる」。「主はすべての国を超えて高くいまし、主の栄光は天を超えて輝く(113:4)」のに「身をかがめて」私たち個々人の実情を見守っておられる。「ハレルヤ(113:9)」と讃美するのは、「栄光が天を超えて輝く」からではない。天を超えて輝く神が、具体的な人間の底に降り給うことへの讃美なのだ。「身をかがめる」とは「逆らう者を地に倒される」(147:6)と同じ言葉。つまり「身を落とす」までに、身をかがめること。

「主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた(Ⅱコリント8:9)」のは、神が「身をかがめて」「身を落とし」、私たちを「豊かにするためだった(8:9)」。私たちの貧しさと罪は、キリストの富と義に「交換」される。キリストにとって、有り余る中のほんの少しを交換したのではない。持っておられる富と義すべてと交換して、キリストは貧しくなり罪に沈む。まさしく十字架に他ならない。

「わたしたちの主イエス・キリストの~(8:9)」と改まった言い方で念を押す。「持っているもの」だけに留まらず、「交換」で御自身の命をも差し出したキリストの愛。もう生命をも超えている。

交換レートがあるわけではない 互いに求めるものを物々交換するわけでもない ただ交換し合う
私が渴いていたから キリストは迷いなく 持っていた水筒を差し出し 私の石ころを受け取った
次主日 8/3 の礼拝後に役員会。カレーの日です。猛暑の中のカレーはうまい!!、皆さん遠慮なくどうぞ。8月の教会カフェはすべてお休みです。8/9(土)1:30~3:00 聖研・祈祷会があります。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。